

■ 指定管理者制度導入施設 中間評価シート ■

1 基本情報

公の施設名	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター
指定管理者名	特定非営利活動法人竹の子作業所
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日(5年間)
施設設置条例	相模原市立津久井障害者地域活動支援センター条例
施設の設置目的	障害者が地域において自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、創作的活動又は生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進を図るとともに、日常生活に必要な便宜の提供を行い、もって障害者の福祉の増進に寄与する。(条例第2条)※地域生活支援事業の地域活動支援センターⅢ型を実施
施設概要	開館時間:午前9時30分から午後3時30分まで 休館日:土曜日、日曜日、祝祭日及び12月29日から翌年の1月3日まで 敷地面積:416.89㎡ 延床面積:229.67㎡ 主な施設作業室、事務室、食堂兼集会室、更衣室、トイレ
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用者数合計(人)	3,723	2,374	2,983		
収入総額(円)	18,638,732	18,760,417	17,372,370		
支出総額(円)	18,638,732	18,760,417	17,372,370		

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点
	B	D	C				5

指標	
指標名(単位)	開所日1日あたりの平均利用者数 単位:人
指標式と指標の説明	施設を利用し、日中活動や地域との交流に参加することにより、障害者の地域における自立した日常生活や社会生活の促進が図られるため、一日当たりの平均利用者数(年間延べ利用者÷開所日数)を成果指標とする。

項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(人)	15.50	15.50	15.50		
実績値(人)	15.05	9.93	12.43		
達成度(%)	97.1%	64.1%	80.2%	#DIV/0!	#DIV/0!

4 事業の実施状況

評価 (5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点 15
	A	A	A				

市が指定する事業

主な事業名	内容等	効果等
相談支援	利用者等に係る状況の把握(毎日)、情報提供及び助言並びに相談指導(必要に応じて随時実施)	言語化や自ら訴えることが難しい方が多いので、毎日の様子を観察し、少しの変化であっても声かけを行うことで、問題の早期発見に努めている。問題解決のため、本人や保護者へ助言等を行っている。
連絡調整	利用者等に対して指定障害福祉サービス事業者及び医療機関等と連絡調整(相談支援事業所とモニタリング実施時期に連携を取っている)	モニタリング実施時期に相談支援事業所と情報交換を行い、必要に応じて市高齢・障害者相談課や医療機関等との連絡調整を行うことで問題の解決に当たっている。
地域における連携	地域における障害福祉に関する関係者による連携(様々な地域の情報等を共有するために社協や市保健センターと連携している)	地域の障害福祉関係者、行政機関、社会福祉協議会等と連携を図り、利用者が地域でより良く生活していくための支援を行っている。
センターの機能強化義務	サービス管理責任者研修修了者による個別支援計画作成業務等(毎年4月作成)	松が丘園で実施しているサービス管理責任者相当の研修を受けた職員が個別支援計画を作成することで、計画に沿って職員全員が一貫した支援ができる。
生産活動を提供する業務	就労支援を目的とした企業の請負作業及び自主製品制作販売の活動(プラスチック製品の分解やシール貼りなどの作業を提供し工賃を支払っている)	コロナの影響で企業の請負作業や自主製品販売が減収となり支払工賃が低下している。職員の声かけや雰囲気づくりによって、労働意欲を保っている。
地域交流に係る業務	地域での各種行事に参加し、障害者及び障害児の保護者又は介護者との地域交流を図る。	コロナ前は、津久井やまびこ祭り等の地域行事に参加し、交流を図ってきたので、地域に認知してもらえた。また、利用者にとっても地域住民と触れ合える機会を作ることができた。
地域活動支援	施設解放(竹の子祭)、ボランティア(習字講師など)、実習生(津久井養護学校等)の受入れ等を行う。	コロナ前は、施設解放やボランティア、実習生等を積極的に受入れることで、地域住民に障害者への理解を深めてもらうことができた。
センターの在り方の検討	今後のセンターの在り方について、センターの抱える課題を鑑みながら、市と協議を行う。	市と協議しながら、障害福祉サービス事業所への移行を進めている。
利用の促進に関する業務	施設及び事業の広報、PR、利用者サービスの向上等に関する業務(竹の子祭について、ポスターやポスティングを実施)	コロナ禍で広報・PR活動ができなかった。利用者サービスについては、コロナでできなくなった行事の代わりになる活動等を職員で考え実施したことにより、楽しんでもらうことができた。

自主事業		
主な事業名	内容等	効果等
野外活動／野外実習	お花見会(4月)、アジサイ見学(5月)、野外実習(7月)	令和元年度は実施。令和2年度はコロナにより全行事を中止。令和3年度は、野外実習(藍染体験)のみ予定時期をずらして小グループに分かれて実施できた。
日帰り研修旅行	社会人として研修旅行を実施し、楽しみながら社会見学を行うことで思い出作りを支援する。	令和元年度は実施できたが、令和2、3年度はコロナにより、実施できなかった。
健康支援	体育館レクリエーション(元気にパワーアップ体操)	令和元年度は実施できたが、令和2、3年度はコロナにより、体育館が使用できず実施できなかった。
給食サービス	給食ボランティアによる配食	令和元年度は実施できた(年20回)。令和2、3年度はコロナにより実施できなかった。令和3年度は代わりに月2回程度職員が調理又は弁当を提供する「簡単お昼」を実施することにより、利用者の楽しみ、保護者の負担軽減を図った。
習字教室	習字ボランティアによる書き方の指導	令和元年度は実施できた(年7回)。令和2、3年度はコロナにより実施できなかった。
竹の子祭	施設を開放し、地域との交流を行うことで、地域の障害者の理解を図る。	令和元年度は実施できた(年1回)。令和2、3年度はコロナにより実施できなかった。

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点
	A	A	A				15

利用者満足度調査

調査手法	利用者16名に対して11月にアンケートを実施
目標値の基準	(職員の対応はいかがですか)との問いに対する4段階のうち(よい),(ふつう)と回答した方の割合の合計

項目 (単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値 (%)	92.3	92.9	93.5		
実績値 (%)	92.3	93.8	93.8		
達成度 (%)	100.0%	101.0%	100.3%	#DIV/0!	#DIV/0!

利用者意見の把握に資するその他の取組

主な取組事項	取組内容
利用者、来所者意見箱の設置	センターに直接、意見や要望等を伝える事が出来ない利用者及び来所者のために意見箱を設置した。

利用者意見に対する対応

主な意見	対応内容
給食ボランティアの給食が食べたい	コロナ禍であるため、ボランティアを呼ぶことは難しいことを説明し、職員が調理又は弁当を提供する「簡単お昼」を実施する。

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	評価点 (20点満点)	評価点 13
	S	B	B				

施設の収支概要

(千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
収入 (a)	16,974	17,313	16,370		
指定管理料	16,005	15,952	15,331		
利用料金収入	0	0	0		
補助金 (コロナ対策関連)	0	600	269		
その他の収入	969	761	770		
支出 (b)	16,430	17,749	16,823		
人件費	12,082	12,958	12,937		
本社管理経費	969	761	770		
その他の支出	3,379	4,030	3,116		
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)	544	-436	-453		
自主事業収入 (d)	0	0	0		
自主事業支出 (e)	0	0	0		
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)	0	0	0		
全体収支 【(c)+(f)】	544	-436	-453		
備考	全体収支の赤字分は、過年度からの繰越金により充当している。				

7 管理業務の履行状況

検査項目	確認結果				
	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
管理業務	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
危機管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
人員配置・地元活用	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
現金管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
会計・経理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
情報セキュリティ	改善済	改善済	改善済		
情報公開・個人情報保護	改善済	改善済	改善済		
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
加点の有無	無	無	無		
主な加点内容					

8 提案事項のうち未実施のこと

主な事項	内容等	理由・今後の実施見込等
利用者の送迎について	利用者及び保護者の高齢化により、通所が困難になることを見越し、送迎サービスの実施について検討する。	利用者や保護者のニーズを確認しつつ、実施に向けて検討を行う。
利用の促進に関する業務	平成27年から新規利用者がいない。広報・PR活動ができていない。	HPやパンフレットの作成等を行い、広報・PRを行っていく。

9 提案事項にないが実施したこと

主な事項	内容等	効果等
なし		

10 指定管理者の自己評価

日中は生産活動として、主に企業から受注したプラスチック製品の分解やシール貼り等の軽作業を行い、令和元年度は1人当たり3,774円/月を支給することができた。新型コロナウイルス感染症の影響から、利用者の制限等を行い令和2年度は1人当たり2,641円/月、令和3年度は2,534円/月と減額してしまうが、職員の声かけや雰囲気づくりによって、活動意欲が大きく低下することはなかった。

生産活動以外の自主事業（行事等）については、令和元年度に実施できていたものが新型コロナウイルス感染症の影響により、ほとんど全部ができなくなってしまう。令和3年度については、コロナウイルス感染症の影響を考慮しつつ、紅葉狩り、クリスマス会、正月のお茶会等の季節を感じる行事や、5班に分かれて野外実習（藍染体験）を行うことができた。利用者もひさびさの体験実習をととても楽しんでた。また、給食ボランティアの代わりに職員が調理又は弁当の提供を行う「簡単お昼」を実施し、保護者の負担軽減を図った。

今後の施設の在り方（障害福祉サービスへの移行）については、利用者にとって不利益にならないように市と協議を進めていく。残りの指定期間については、平成27年から新規利用者がいないことから、事業所の広報・PR活動に力を入れていくとともに、コロナウイルス感染症でできなくなってしまった地域との交流を再開していきたい。

11 所管課意見

・コロナウイルス感染症の影響で1人当たりの工賃は減少しているが、利用者のモチベーションを維持できたことは評価する。生産活動に係る請負作業等については、長年同じ内容の作業をしている状態があるので、利用者の経験の幅を広げるためにも新たな作業を提供できる企業を開拓していく必要がある。

・コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの行事が中止になっても利用者満足度を高く維持できていることは評価する。職員が手厚い支援を行っていることがわかる。

・平成27年から新規利用者がいない状況が続いている。提案事項のうち未実施である『利用者の送迎について』や『利用の促進に関する事業（広報・PR）』については新規利用者獲得のきっかけになるので、早急に検討を行うとともに地域の障害者に選んでもらえる魅力ある施設運営の実施を求める。

12 選考委員会意見

【評価した点】

・コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度に引き続き、令和3年度もほとんどの自主事業（行事等）が中止となっているが、時期をみて野外実習（藍染実習）を実施したり、給食サービスの代替として「簡単お昼」を行ったことは評価できる。

・利用者満足度が高く維持できていることは評価する。利用者及び保護者が高齢化していくなかで、地域で在宅生活を継続していくためにも利用者だけではなく世帯を含めた支援を期待する。

【今後期待する点等】

・長期間にわたり新規利用者がいない点については、公立施設に期待される役割として疑問を持たざるを得ない。法人の目的、公立施設を運営していることの使命、長年地域にある施設として津久井地域の障害者をどのような支援していきたいのか等を今一度考えていただき、市と協議を行い、地域にとって必要とされる施設運営を行ってほしい。

総合評価（自動判定）

C

(53/100)

